

総括（大学院総合社会情報研究科）

I 教育研究活動の現況（目標や計画の達成状況）

本研究科は、建学の精神に即し社会人に対して高度な専門知識の提供と再教育を行うことを目的として、平成11年4月に開設された。本研究科博士前期課程では、学生がそれぞれの分野について専門を深めるとともに、多角的な視野と価値観を養うため、幅広い科目が選択可能なように配慮している。また、在宅での研究を効率的に行うために、パソコンを活用している。また、平成15年4月に設置された博士後期課程においては、高度の専門的及び学際的教育を行うとともに、創造的で未来志向型の研究態度と学識を持った人間性豊かな全人的な研究者を養成することを目的としている。

博士前期課程では、目標はほぼ方針どおり遂行されており、修了率は例年70%近くとなっている。

博士後期課程では、平成18年3月に初めての課程博士を5名輩出した。

II 大学院総合社会情報研究科の特色と課題

わが国初の通信制大学院として平成11年に開設された本研究科では、開設当初から学生・教員の全員にパソコンを貸与し、インターネットを活用して、日本に限らず世界中どこにいても研究指導が行える体制を整えている。

遠隔地でも面接指導が行えるためのシステムとして、開設当初は主に1対1で対話を行う「インターネットTV会議」を実施していたが、平成13年度からは遠隔地でもゼミ単位での発表・討論を行う「サイバーゼミ」を実施している。今後の技術動向に合わせて、よりよいシステムを採用するよう今後も検討されていく予定である。

これらのパソコンを利用した研究指導と平行して、所沢の大学院校舎や日本大学会館（東京・市ヶ谷）で実施される特別研究スクーリングや、公務での出張等にあわせて地方でのゼミ指導など、熱心な研究指導が行われている。

博士前期課程の志願者が減少の傾向にあることから、今後の課題として、広報活動を充実させるほか、修了者が新規の志願者を紹介できるような状況を築くことが望ましい。

また全学的に実施している相互履修について、本研究科では現在のところ検討できていない。他の研究科で要望が多いようであれば検討課題として挙げら

れるべきであろう。

Ⅲ その他

平成16年度から、年度末に「教員打合せ会」を開催し、非常勤講師も含めた全教員に対して、教育理念の説明と教育上必要なスキルに関する講習を行っている。不足している事項はまだ多いが、着実に成果を残していけるよう、改善されることを望む

(大学院総合社会情報研究科 自己点検・評価委員会委員長 眞 邊 一 近)